

注 意 報

6 病 第 2 6 号
令和 6 年 7 月 2 4 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり、発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第 3 号

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 1 作物名 | 果樹全般 |
| 2 病虫害名 | 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ） |
| 3 発生地域 | 府内全域 |
| 4 発生時期 | 5月上旬～ |
| 5 発生量 | 多 |



6 注意報発令の根拠

本年は果樹カメムシ類の発生が多く、病虫害発生予察注意報第 1 号（令和 6 年 5 月 2 日付け）を発表した。以降も多発生が続き、7月上旬から中旬にかけて予察灯及びフェロモントラップへの誘殺数が急増している。

- (1) 6月第4半旬から7月第3半旬の、チャバネアオカメムシのフェロモントラップへの誘殺数は京田辺市では 302 頭(平成 37 頭)、亀岡市では 955 頭(平成 92 頭)、京丹後市では 56 頭(13 頭)と、いずれも平成比多い(図 1)。
- (2) 6月第4半旬から7月第3半旬の、チャバネアオカメムシの予察灯(ブラックライト、以下 BL)への誘殺数は京田辺市では 509 頭(平成 117 頭)、亀岡市では 204 頭(平成 12 頭)、京丹後市では 1024 頭(平成 70 頭)と、いずれも平成比多い(図 2)。
- (3) 6月第4半旬から7月第3半旬の、クサギカメムシの予察灯(BL)への誘殺数は京田辺市では 19 頭(平成 4 頭)、亀岡市では 14 頭(平成 1 頭)、京丹後市では 328 頭(平成 6 頭)と、いずれも平成比多い(図 3)。
- (4) 6月第4半旬から7月第3半旬の、ツヤアオカメムシの予察灯(BL)への誘殺数は京田辺市では 45 頭(平成 7 頭)、亀岡市では 7 頭(平成 1 頭)、京丹後市では 95 頭(平成 16 頭)と、いずれも平成比多い(図 4)。
- (5) 7月 18 日発表の近畿地方の気象 1 か月予報では、気温は高く降水量は平成並とされ、今後果樹園への飛来が増加する恐れがある。

7 防除上の注意事項

- (1) カメムシ類は局地的に発生し被害をもたらすこともあるため、園内外の成虫発生状況

をこまめに観察し、発生を認めたら早めに防除すること。特に、山林等の隣接園では注意する。

- (2) カメモシ類は、夜温が高く風の弱い日の日没頃に多く飛来する。
- (3) カキの被害は7月中旬以降に発生することが多い。8月中下旬までに加害された果実の多くは落果する。
- (4) 収穫期が近い果樹は、他の病害虫防除も含めて、農薬の使用にあたっては使用基準(特に収穫前日数)を厳守する。
- (5) ハダニ類やカイガラムシ類が多発する恐れがあるので、合成ピレスロイド剤の連用を避ける。

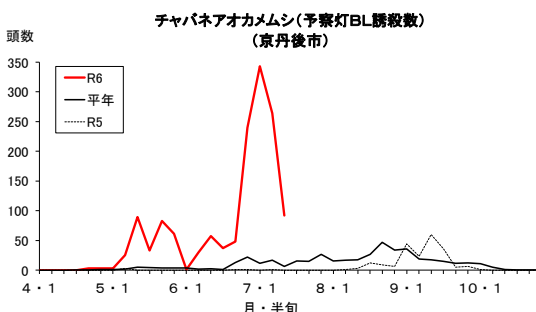
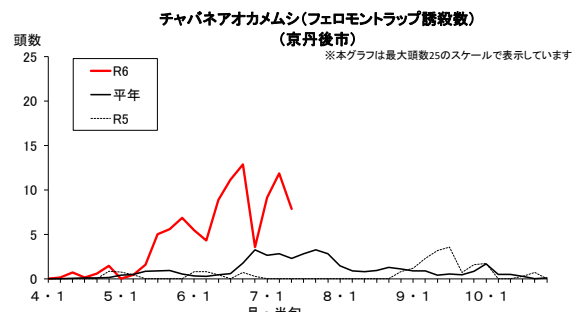
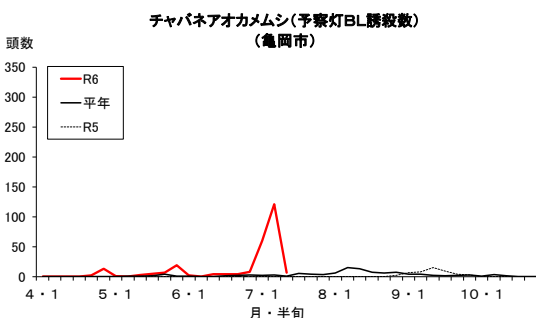
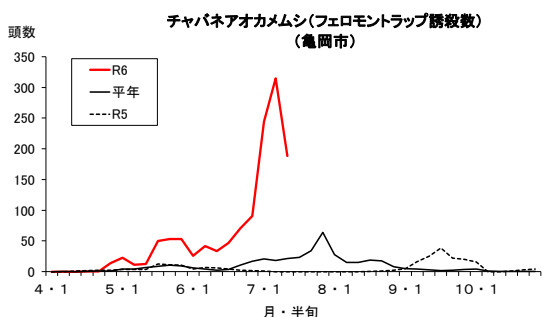
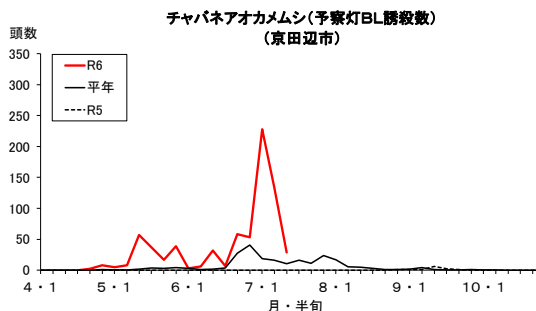
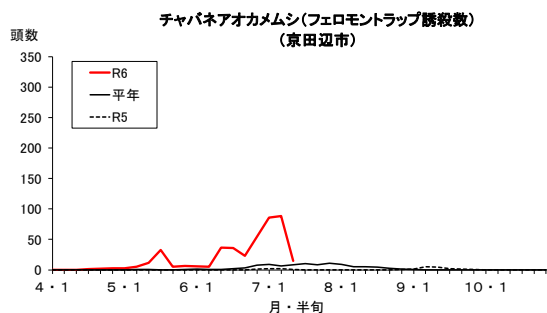


図1 フェロモントラップへの誘殺状況(チャバネアオカメムシ)

図2 予察灯(BL)への誘殺状況(チャバネアオカメムシ)

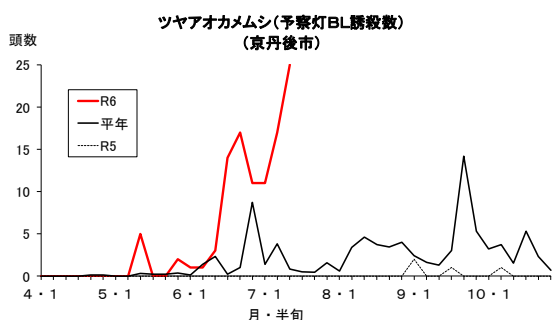
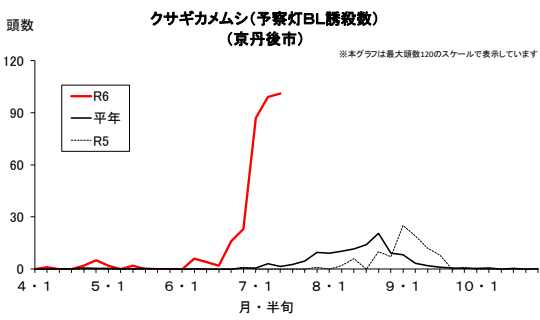
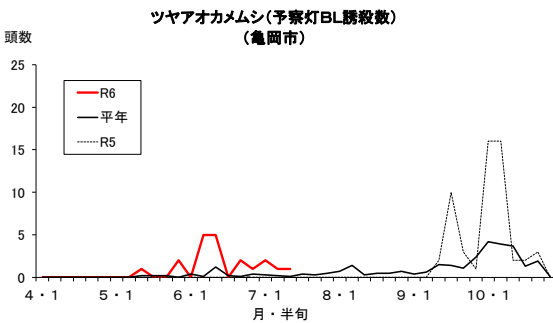
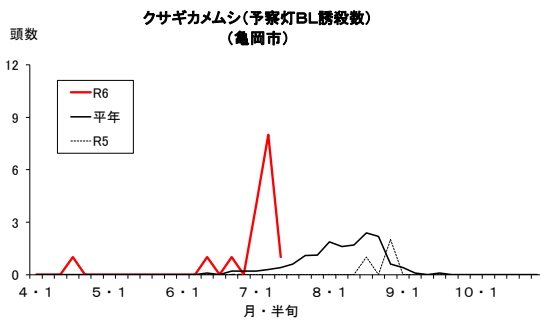
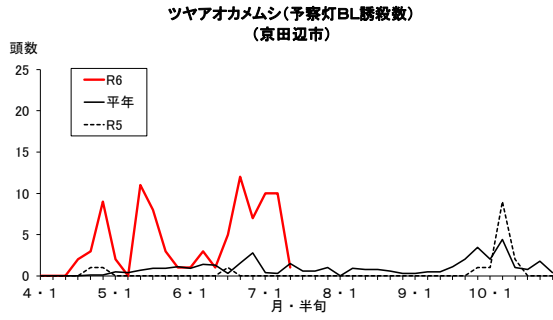
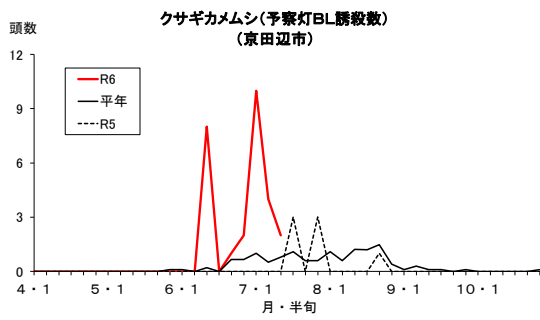


図3 予察灯(BL)への誘殺状況(クサギカメムシ)

図4 予察灯(BL)への誘殺状況(ツヤアオカメムシ)



写真1 果樹カメムシ類の被害果(左:ナシ、右:カキ)

表1 「なし」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(令和6年7月10日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
1B	スミチオン水和剤40	800~1,000	(有袋栽培)収穫14日前まで (無袋栽培)収穫21日前まで	6回以内	散布	6回以内
3A	ロディー水和剤	1000	収穫前日まで	2回以内	散布	7回以内(噴射は5回以内、散布は2回以内)
	テルスター水和剤	1000~2000	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	テルスターフロアブル	3000~6000		2回以内	散布	2回以内
	アディオン乳剤	2000	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	アグロスリン水和剤	1000~2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
4A	アクタラ顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー水和剤	1000	収穫3日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	散布	2回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000~10000		2回以内	散布	2回以内
	ダントツ水溶剤	2000~4000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

表2 「ぶどう」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(令和6年7月10日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
4A	ダントツ水溶剤	2000~4000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内(但し、塗布は1回以内)

表3 「かき」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(令和6年7月10日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
1B	スミチオン水和剤40	800~1000	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内(樹幹処理は2回以内)
3A	ロディー水和剤	1500	収穫7日前まで	3回以内	散布	8回以内(噴射は5回以内、散布は3回以内)
	テルスター水和剤	1000~2000	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
	テルスターフロアブル	3000~6000	収穫3日前まで		散布	
	アグロスリン水和剤	1000~2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アーデント水和剤	1000	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
4A	アクタラ顆粒水溶剤	2000	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー水和剤	1000	収穫7日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000~10000		3回以内	散布	3回以内
	ダントツ水溶剤	2000~4000	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(但し、塗布は1回以内、散布は3回以内)

表4 「かんきつ」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(令和6年7月10日現在の登録内容)

IRACコード*	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
3A	テルスター水和剤	1000~2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	テルスターフロアブル	3000~6000		3回以内	散布	
4A	アクタラ顆粒水溶剤	2000	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ダントツ水溶剤	2000~4000	収穫前日まで	3回以内	散布	6回以内(樹幹散布は3回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内)
	モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤーフロアブル	2000~5000	収穫14日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000~10000				
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

※IRAC コード…殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる

農薬の使用に当たっては、ラベル及び最新の使用方法や注意事項を確認すること。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意すること。